

# 「自然界の循環」

山本 悠翔 (5歳)

No23 大阪府豊中市 [カテゴリー] 動物 [観察場所] お庭に植えている、みかんの木の周り

[感想] 最初は残野菜から出来ていると知り、野菜が少し苦手な子供は鼻をつまんでいましたが、テーマが決まるとスッカリ作品作りに夢中になっていました。

テーマ決めは、子供の好きなアラスカの本の中で、魚を食べる動物や鳥、その動物や鳥が糞をし、森が豊かになるという内容があるのですが、その循環にまつわる物を作りたいということから始まりました。作りながら、クジラとダイオウイカを戦わせたり、粘土を混ぜてマーブル状にし、カラフルな花や果実を作り豊かな森を再現したりと、世界がどんどん広がっていきました。

置く場所は、お庭のみかんの木の成長が遅いことから、残野菜で出来ているなら、木の栄養になって大きく成長し、みかんが出来るかもと、果物大好きな子供は期待しながら決めていました。

私と一緒に自分専用カメラで様子を撮ったり、触ったりして感触を確認していました。台風があった日は家の中から様子を伺い、白くなっていた粘土がまたうっすら色がつく現象がおこり、家族で不思議な粘土やねーと言いながら観察。

そしてある日、庭に見たこともない大きなトカゲを発見！子供はトカゲを見ていないのですが、写メを見せると、何故か粘土に直行。粘土が、小さくなっていることから、トカゲが粘土食べたんだ。栄養たっぷりだったから、あんな大きいトカゲになったのかなと、ますます粘土観察が楽しくなっていました。

その後も小さくなっていく粘土を見て、トカゲが食べたのかな、栄養になってみかんの木が大きくなりますようにと祈る姿も見られました。目の前で本と同じ循環を感じとる瞬間でした。

[その他コメント] 家族で参加でき、こんなにも子供の探究心をくすぐり、色々な表情をさせてくれるコンテストは、なかなかないなと思いました。

